

なし新品種「きらり」の育成

1. 試験のねらい

「豊水」と「にっこり」の間に収穫される「新高」は、肉質が悪いため肉質の良い品種への更新が望まれている。そこで、「新高」と同時期に収穫でき、大果で良食味の品種の育成を図る。

2. 試験方法

平成6年4月に自家結実性で肉質が優れる「おさ二十世紀」に、大果で食味の良い「にっこり」の花粉を交配した(図-1)。平成7年春より実生を養成し、平成8年に定植した。平成9年に結実を早めるため成木の長十郎に高接ぎし、平成11年に初結実した。その後、2か年とも「新高」と同時期に収穫でき、食味が良好であったことから、平成13年に系統名「なし栃木2号」を付与し、平成14~16年の3年間系統適応性検定を実施した。その結果有望と認められたため、品種名「きらり」で、平成17年1月に品種登録を出願した。

3. 試験結果および考察

(1) 特性の概要 「きらり」は「新高」と比較して次のような特徴がある。

- 1) 収穫期は10月上~中旬で、「新高」とほぼ同時期であり、「豊水」と「にっこり」の間に収穫できる(表-1)。
- 2) 果実は、600~800gの大果で、果皮は黄褐色、果形は円形である(写真-1、表-2、3)。
- 3) 糖度は12%程度、「新高」に比べ肉質は緻密で軟らかく、酸味は弱く、食味良好である(表-2、3)。常温での貯蔵性は「新高」より短く、10日程度である(データ未掲載)。
- 4) 開花期は「豊水」とほぼ同時期である。DNAマーカーで検定した結果、自家結実性はなく、「愛宕」「八里」以外の品種と交配可能である(表-1、4)。
- 5) 樹勢は中程度、枝の発生はやや少なく、短果枝、えき花芽の着生とも「新高」よりやや少ない(表-5)。
- 6) 黒星病、黒斑病、輪紋病に対しては「新高」と同程度に強く、えそ斑点病に対しては病徴発現性である(表-5)。

(2) 栽培上の注意点

- 1) えそ斑点病に対しては病徴発現性であるため、無病の台木に接ぎ木する。
- 2) みつ及びす入り症の発生は少ないが、過熟果は果肉の維管束繊維がわずかに褐変することがあるため、適期に収穫する。

4. 成果の要約

10月上~中旬に収穫でき、「新高」より果実品質が優れる「きらり」を育成した。この品種は「新高」に替わる新品種として期待できる。

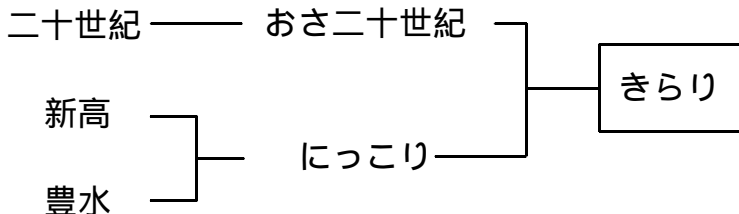


図 - 1 系譜図



写真 - 1 新高との比較

表 - 1 開花期及び収穫期

品 種 名	開 花 期			収 穫 期		
	始	盛	終	始	盛	終
きらり	4/12	4/15	4/18	9/30	10/7	10/14
新 高	4/11	4/14	4/18	9/27	10/6	10/16
豊 水	4/13	4/15	4/19	9/4	9/18	9/27
あきづき	4/15	4/18	4/22	9/17	9/26	10/2
にっこり	4/11	4/13	4/16	10/14	10/24	10/30

注) 平成14～16年の平均

表 - 4 交配特性

品 種 名	S-遺伝子型	「きらり」との 交配親和性
長十郎	S ₂ , S ₃	×
二十世紀, 菊水	S ₂ , S ₄	
きらり, 愛宕, 八里	S ₂ , S ₅	
あきづき, 筑水	S ₃ , S ₄	
豊 水	S ₃ , S ₅	
新 高	S ₃ , S ₉	
幸水, 新水	S ₄ , S ₅	
新興, 南水	S ₄ , S ₉	
にっこり, かおり	S ₅ , S ₉	

注) S-遺伝子型が同じ品種同士は交配できない。

表 - 3 果実の外観及び食味

品 種 名	果皮色	果形	果肉色	果肉の 粗密	果肉の 硬さ	甘さ	酸味	香気	食味評価
きらり	黄褐色	円	黄白	密	軟	高	微	微	良
新 高	黄褐色	円	乳白	やや粗	中	やや高	中	無	中
あきづき	黄赤褐色	扁円	白	密	軟	高	微	微	良

表 - 5 生育特性

品 種 名	樹勢	枝の 発生	短果枝 の着生	えき花芽 の着生	黒星病	黒斑病	輪紋病	えそ斑点病
きらり	中	やや少	やや少	やや少	強	強	強	発現性
新 高	中	やや少	多	やや多	強	強	強	発現性
あきづき	強	やや多	少	少	強	強	強	非発現性